

3月の県内景況調査結果の概要

1. 主要指標の前年同月比D I 値の動き

3年3月のD I 値は8指標中、5指標が上昇。特に「収益状況」「販売価格」においては2桁の大幅な上昇。「景況」「取引条件」は下落となり、「設備操業度」については横這いとなった。

2. 県内中小企業の景況の現状

建設業関連では需要が堅調であり、自動車販売整備業においても引き続き前年度比プラスとなり、需要が好調であった様子。また一部業種からも持ち直しの動きがあるとの明るい報告も寄せられた。

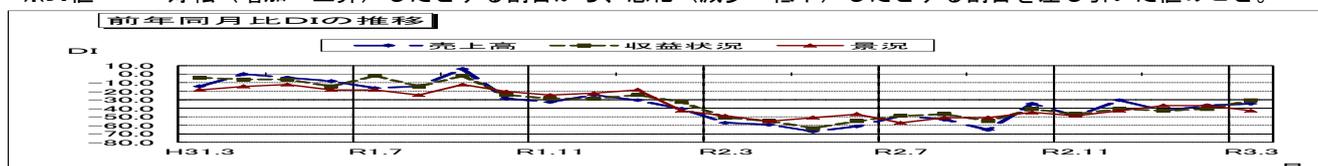
一方、高齢化や人材不足など慢性化する労働力問題をはじめ、依然として原材料高や燃料価格の値上がりも続いている。加えて、長引く新型コロナウイルスの影響により、例年のような年度末需要も見られず、新生活様式に合わせた事業活動を行うも厳しい状況が続いており、先行きを不安視する声も多くの業種から寄せられた。

景気は米中貿易摩擦や日韓関係の悪化など緊迫する国際情勢、また我が国をはじめ世界中で出口の見えない新型コロナウイルス問題など国内外経済の下振れリスクが顕著化してきており、一部に持ち直しの動きがあるものの景気の低迷が続いている。県内中小企業においても、更なる景気の悪化に備える必要がある。

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

	R2 3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R3 1月	2月	3月	前月比 増減
景況	-49.0	-55.1	-51.0	-46.9	-57.1	-51.0	-51.0	-44.9	-49.0	-42.9	-36.7	-36.7	-42.9	-6.2
売上高	-57.1	-59.2	-67.3	-61.2	-49.0	-53.1	-65.3	-34.7	-49.0	-30.6	-42.9	-36.7	-34.7	2.0
収益状況	-51.0	-55.1	-63.3	-55.1	-49.0	-46.9	-55.1	-40.8	-46.9	-40.8	-42.9	-40.8	-30.6	10.2
販売価格	2.0	-12.2	-2.0	-2.0	0.0	-6.1	-10.2	-8.2	-2.0	-6.1	0.0	-6.1	4.1	10.2
取引条件	-20.4	-30.6	-26.5	-18.4	-22.4	-18.4	-12.2	-18.4	-16.3	-12.2	-14.3	-12.2	-14.3	-2.1
資金繰り	-32.7	-40.8	-40.8	-36.7	-30.6	-20.4	-24.5	-18.4	-24.5	-24.5	-26.5	-24.5	-18.4	6.1
設備操業度	-10.2	-14.3	-14.3	-22.4	-16.3	-12.2	-18.4	-14.3	-16.3	-14.3	-16.3	-12.2	-12.2	0.0
雇用人員	-12.2	-18.4	-8.2	-10.2	-10.2	-10.2	-6.1	-6.1	-8.2	-8.2	-4.1	-8.2	-6.1	2.1

※DI値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。



〔景況関連の報告〕

【製造業】

<食料品>

1. 味 噌・前年同月比、みその生産量は90.5%、出荷量は95.5%となった。前月比でみその生産量は減少、出荷量は増加した。新型コロナウイルスのリバウンドで外食需要が落ち込み、米の需給が緩む見通しが一段と強まった。主要原材料の価格に影響が出ている。コロナ禍の状況の変化に注視したい。依然として厳しい状況は続いている。
2. 漬 物・漬物製造業者では依然売上の減少が止まらない。人参を生産している農家は収穫の最盛期であり、価格も前年より高くなっている、野菜等の輸入量が減少している影響と思われる。

<繊維・同製品>

3. 縫 製・繊維業界は全般的に落ち込んでおり、回復の兆しが見えない状況である。組合員の減少も相変わらずで、増加の見込みはない。設備面では、日本製の機械設備がほとんどなく、海外品の購入に頼らざるを得ない状況である。そのため納期面・購入価額面での不利益が多い。生産については、従前と同じく次月以降分の製品備蓄を中心に展開している。

<木材・木製品>

4. 製 材・アメリカや中国での木材需要が好調なこともあり、外材の輸入量が激減し、外材価格が今までにない上昇幅を見せている。国産材の価格もそれに追随する動きが見られる。国産材へのシフトは地域差も見られるが外材を代替するまでには至っていない。
5. 木 材・4月に入り、原木丸太の入荷も多少増えてきている。注文も殺到しているので、入荷に期待して安定的に送りたい。
6. 木 材・景気は今までと同じく高揚の気配すらない。コロナウイルスワクチン接種までは、景気回復になる材料が乏しい。

<印 刷>

7. 印 刷・3月も全体的に売上高や需要の減少傾向が続いている。年度末需要に伴う売上高の増加と需要の回復を期待するところだったが、コロナウイルスの影響で徳島マラソンや花春フェスタなどの大型イベントは中止。チラシ、ポスター、プログラム等の印刷需要が低迷している。新年度にかけてもほとんどの催しやイベントが縮小または中止。現在、徳島と鳴門、両文化センター改修に伴う、会場不足。更に広告集めにも行けず運営に苦しんでいる団体も多い。公的支援と活動の場を提供できる仕組み作りが急務であると感じている。

8. 印刷・3月は年度末という事で毎年忙しい月の1つに数えられるが、今年は先月よりは良くなったが、例年の3月に比べると低調な月となった。官公庁の入札に関して、コロナ禍で民間企業からの仕事のオファーが減少しているため入札案件を受注しようと激しい争奪戦になっており、落札価格も相当下がっているとの事だった。この様なことが続くと利益がない仕事を受注することになり、この先どうなっていくのか心配である。

<窯業・土石製品>

9. 生コン・3月は昨年同月と比較して約30%減少。トンネル工事も終了し、新規工事も少なく昨年同時期より出荷量は減少した。今年度全体の出荷量も昨年度を約8%下回った状況。令和3年度の見通しは令和2年度出荷量の約10~15%程度減少するのではないかとみている。
10. 生コン・3月の出荷数量は、対前年同月比15%減であった。要因としては出荷数量が前年同時期と比較して、大型工事の終了とそれに代わる官民での新規工事の減少による。期末出荷数量においても対前年7%弱の減となった。今後の展開としては、県・国等の公共工事はある程度見込めるものの前年並みの数量確保は厳しいと思われる。

<鉄鋼・金属>

11. 鉄鋼・業況感に大きな変化はないものの、一部設備操業度の回復基調がうかがえるところである。全体的には、企業の生産は振れを伴いつつも持ち直しているとのことではあるが、ほぼ横ばい状況であり、依然として弱含みで推移している。引き続き、今後の景気動向が注視されるところである。
12. ステンレス・国内の状況としては、鈍い動きの中でも回復の兆しはあったが、感染の再拡大を受けて先行きの不透明感が増し始めている。海外についても、渡航規制緩和の目処は立たない状況が続いているが、国によってはワクチン接種の効果も報告されており今後の新規感染者の減少に期待している。感染の再拡大が懸念される中ではあるが、防止策を講じつつ企業活動レベルを維持するように努めている。しかし、コロナ禍以前と同様までの回復はまだ見通しが立たない状況にある。

<一般機器>

13. 機械金属・景況感は、一部に持ち直しの動きも見られるが、再拡大の兆しが見られる新型コロナウイルスの影響もあり、営業活動の停滞等により売上高や引合いなどに、引き続き、厳しい状況も多く見られ、依然として先行きの見通しが不透明で、将来に対する不安感は拭えない状況である。また、熟練技術者をはじめ従業員の確保難、原材料価格その他の経費の増加なども、経営上困難な課題として見受けられる。

【非製造業】

<卸売業>

14. 食糧卸・新型コロナ新規感染者が増加傾向にあり、業務用商品の出荷量の低迷が見込まれる。

<小売業>

15. ショッピングセンター・12月にオープンした店舗を含めると売上前年対比107.4%、客数99.7%だが、既存店のみでは売上95.9%、客数95.0%だ。特に分母の大きい各店舗(食品)が悪かった。1月の報告で述べたように本当にリニューアル景気は終わったのだろうか。わずか1~2カ月で。売上の悪い月はコメントが少なくなる。4月に期待だ。
16. 各種商品小売業・コロナ禍でも可能なイベントを選ぶなどして販促も工夫して行い、それなりの集客につなげていき売上を減少させない努力をしたが、4月が不安でしかない。
17. 畳小売業・相変わらず飲食店、ホテル等の営業用の畳替えは低迷。一般家庭用も手控え感が強く、問い合わせも少ない。コロナとつきあって1年、疲労感が出てきている。それ以上に慣れが怖いと思う。
18. 電気機器・コロナ感染拡大のため、積極的な販促は引き続き控えている状況なので、全体的な動きは良くない。
19. 機械器具・商品供給が今後更なる悪化を予測。原材料、輸送費の値上りも予測。収益状況が悪化するのでは？と考える。

<商店街>

20. 徳島市・3月末にコロナ禍による売上げ減少となり、飲食店が1店舗閉店となった。夜間の人通りが全くなっている。
21. 徳島市・コロナの変異株が関西で増え、徳島でも毎日のようにコロナが出ているので、厳しい状況は続いている。
22. 阿南市・さくら祭りが今年も中止。
23. 鳴門市・3月は1年で最も忙しい月だが、今年はイマイチだった。昨年からコロナの災いにより、売上が分散したものと思われる。家具業界は材料値上げがあった。

<サービス業>

24. 土木建築業・徳島河川国道事務所の3月の動向は、先月と比較して大きな変化はない。工務課は新直轄工事は一部暫々定供用し北工区は落ち着いてきたが、南工区の事業が多くなって来ている。道路管理課は業務・工事等の発注が終わり、落ち着いた。交通対策課は課全体の工事・業務は少なく、次年度発注量も少ないため、落ち着いている。去年度との比較については、業務（工事発注に向けての、資料作成）は、ほとんど変わらないと思われる。働き方改革により、担当技術員の残業が少なくなってきた。そのために、R3年度技術員の増員となっている。
25. 自動車販売整備業・登録車（普通車）の新車登録台数は対前年同月比-0.9%の2,027台、中古車は13.3%の622台、合計では2.1%の2,649台であった。軽自動車の新車登録台数は対前年同月比2.2%の1,682台、中古車12.9%の516台、合計は4.5%の2,198台である。登録車・軽自動車の登録台数合計は対前年同月比3.2%の4,847台と増加。登録車の新車販売台数が0.9%減となった以外はすべて前年度比がプラスとなり、販売台数はトータルで3.2%増となった。登録車、軽自動車ともに新車よりも中古車の販売台数の方が前年度よりも売れ行きが良い。年度で見ると、増税の影響を受けた前年度と、新型コロナウイルスの影響を受けた今年度の前年度比は、今年度は8.6%減という結果となった。令和2年度は自動車業界も新型コロナウイルスによる大打撃を被りつつも、一時落ち込んだ自動車生産・販売は回復基調にある。コロナ禍が新車需要拡大に繋がるかどうかとも未知数ではあるが、来年度に期待したい。収益状況の目安と見ている継続検査の台数は、登録車は20.3%増、軽自動車は10.2%増となった。
26. 旅行業・現況は依然厳しい状態である。事業者の自力では不可能である。感染症においては推移を見守りながら対策を模索する。
27. ビル管理・近年、取引条件がほとんど変化しない中、最低賃金の引き上げが続いている。（H25年・666円→R2年・796円）。このような急激な最低賃金の引上げに伴う影響が確実に現れてきている。更に、働き方改革への対応（同一労働同一賃金など）、労働需給の逼迫、先般成立した社会保険（厚生、健康）改革法の施行に向けての対応など多くの課題に包まれている状況だ。加えて、新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、ホテル分野のメンテナンス業においては、従業員に対して雇用調整助成金等による休業補償でしのいでいるものの、現在なお収束のめどが立たない状況にあり、低収入による従業員の職場離れが発生している。今後、従業員の確保定着が大きな課題となることが予想される。また、病院や高齢者利用施設等においては、管理者と連携し、細心の注意の下で業務を遂行しているところだ。全体としてみると、3月分は前年同時期と比べ、新型コロナウイルスの影響のケースを除き、大きな変化はない。しかしながら、現下の新型感染症の感染状況を見ると、今後、多様で深刻な影響が現れてくることも想定され、これを念頭に事業活動に当たっているところだ。

<建設業>

28. 建設業・西日本建設業保証㈱によると、徳島県発注工事は、3月末現在で請負額約568億円で対前年比23.9%増となっている。公共工事全体でも11.3%増となっている。
29. 電気工事業・新設住宅口数は175件であり、対前年比84.1%と減少した。
30. 板金工事業・3月で一区切りついたようで、全体的に仕事は暇な状況になりつつあるが4月の後半から少し忙しくなりそうである。ただ4月から材料費が15%程度の値上げを提示してきており、かなり深刻な問題になっている。

<運輸業>

31. 貨物運送業・昨年2月からの新型コロナの影響は依然として収まりが見えない中、3月は若干の荷動きの増加がみられた。運転手の自宅待機も行われている中、軽油単価は前月比で約5円弱の値上りとなり、厳しい経営状況下にある。
32. 貨物運送業・宅配関係の売り上げは好調だが、運輸全体としては売上高は減少した。軽油価格が18週連続で値上がりが続けていてコスト面においても不安材料に拍車がかかっている。